

集約処理により建設費と維持管理費のコストダウンをしています。

汚泥処理で発生するエネルギーや資源を効率的に利用しています。

設備を24時間監視し、安全に運転をしています。

環境にやさしい施設です。

消化ガスの有効利用

消化タンクで汚泥中の有機物を微生物の働きによって分解し、発生する消化ガスを有効利用しています。

ガスエンジンの利用

ガスエンジンにより発電し、固定価格買取制度に基づき売電を行うとともに、所内の電力の一部も賄っています。また、エンジンから発生する廃熱も、消化タンクの加温等に使用しています。

燃料としての利用

汚泥を燃やす焼却炉の燃料として利用している他、南部汚泥資源化センターではごみ焼却工場の燃料としても使用しています。

灰の有効利用

改良土（北部汚泥資源化センター）

汚泥焼却灰を建設発生土などに混入して改良し、建設埋め戻材として再利用されています。

セメント原料等

発生した汚泥焼却灰は、セメント等の原材料として有効利用され循環型社会に貢献しています。

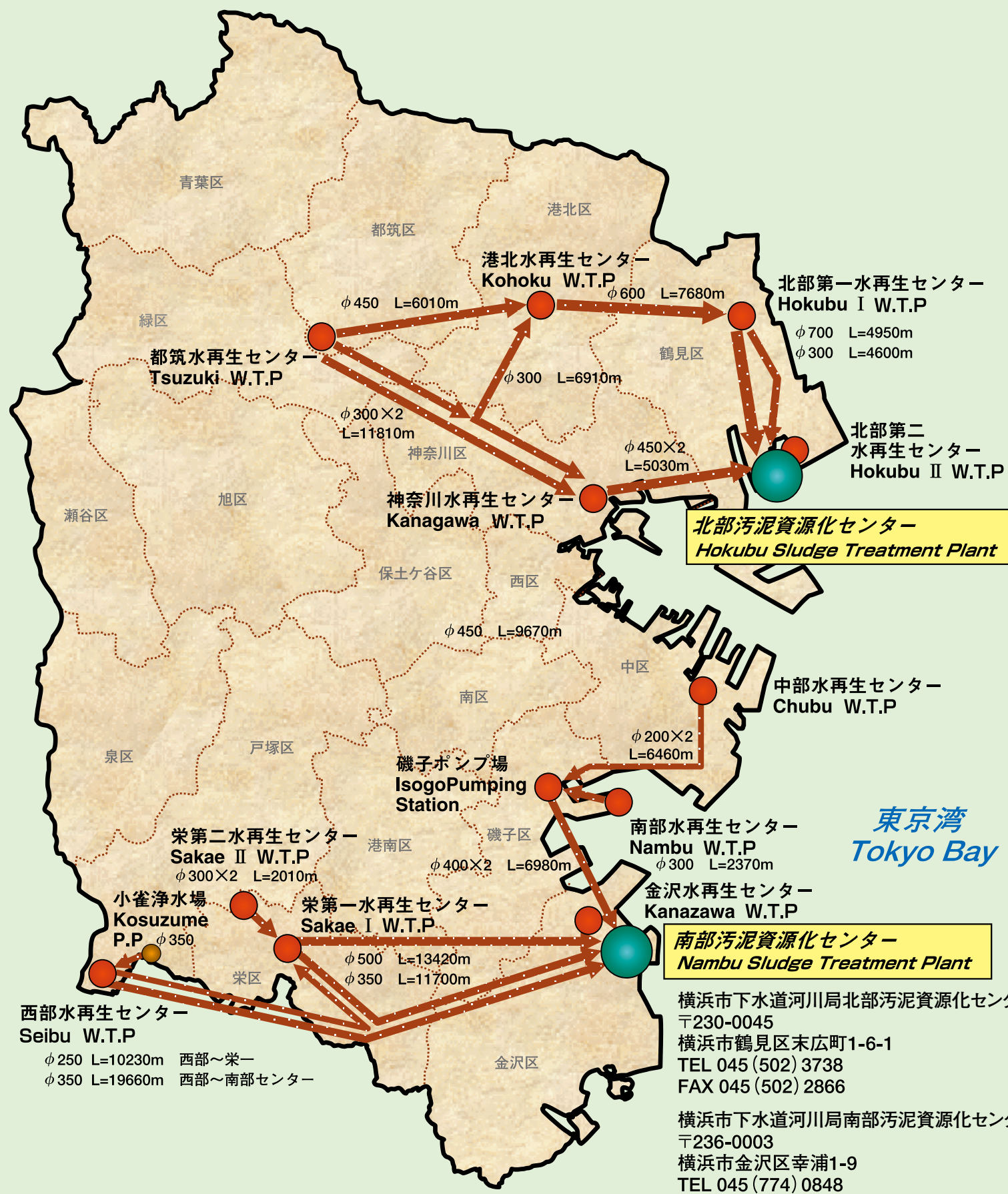
汚泥の燃料化事業

汚泥を石炭の代替燃料として資源化し、発電等に活用することで、温暖化防止に貢献します。

再生リンの肥料利用

脱水ろ液中のリンを回収し、肥料原料として活用することでリンの地域循環と肥料の国産化に貢献します。

送 泥 管 ル ー ト 図



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

横浜市下水道河川局

下水汚泥は資源の宝庫

汚泥資源化センター



横浜市下水道河川局

かけがえのない環境を未来へ



汚泥資源化センターは……

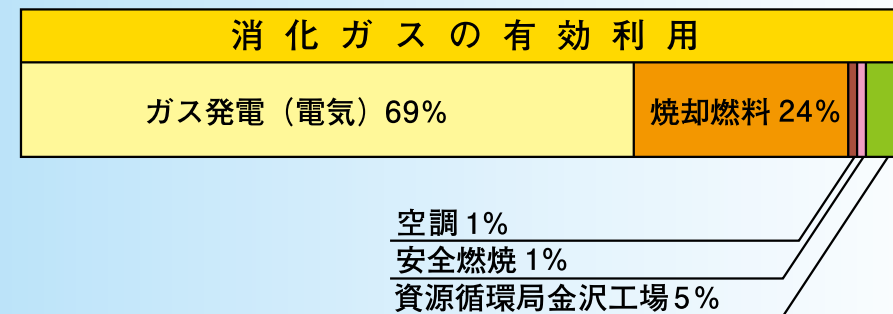
○ 循環型社会への取り組み

汚泥からは消化ガスや汚泥を焼却した後の灰など多くの資源が発生します。汚泥資源化センターでは循環型社会をめざし、それらの資源の有効利用を進めています。

○ 環境汚染対策への取り組み

汚泥を焼却する際に発生する大気汚染物質について、24時間監視をしています。

下水道資源の有効利用



下水道資源

汚 泥



消化ガス

焼 却 灰

汚泥燃料化

リン回収

横浜改良土センター(株)



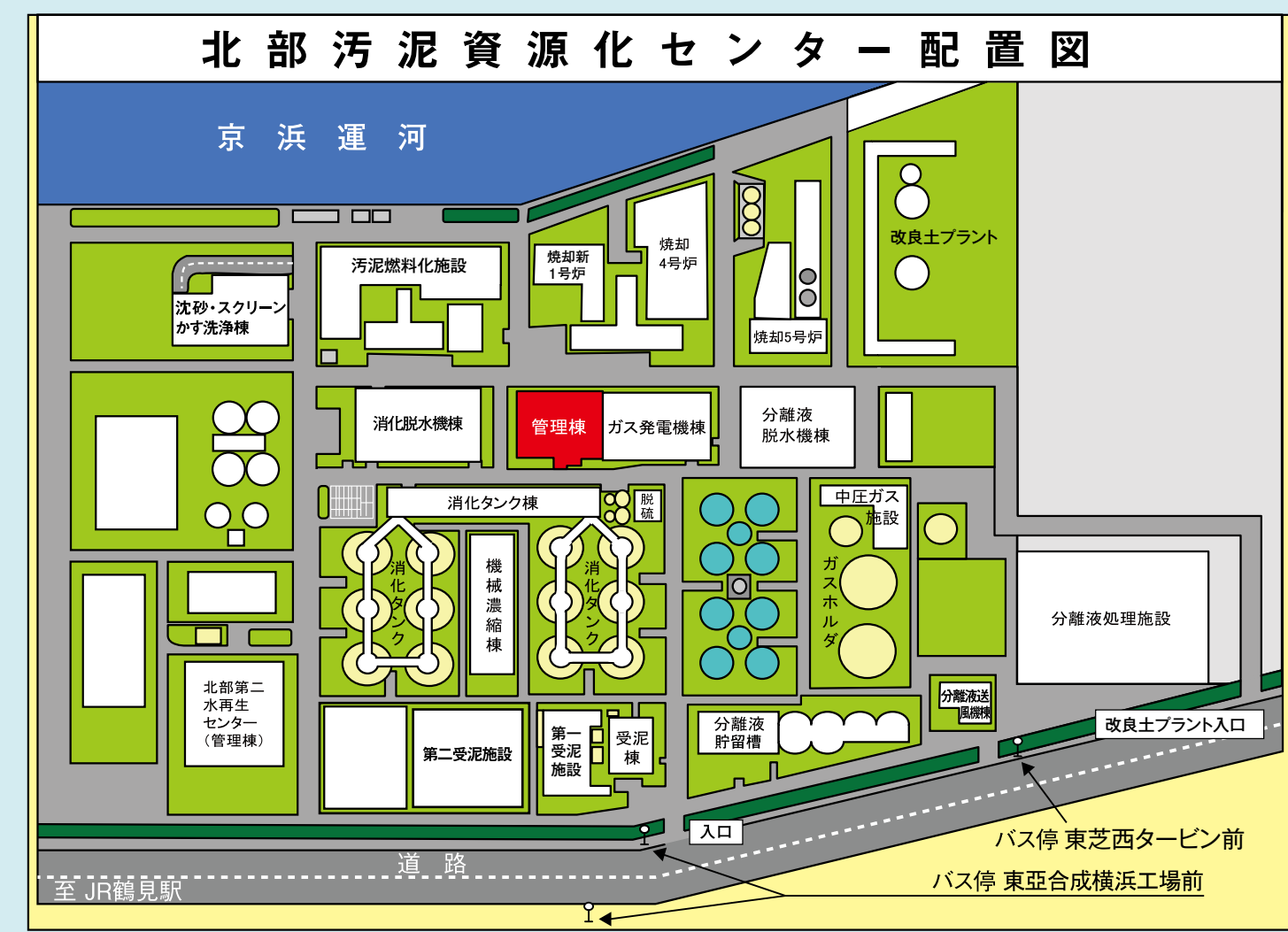
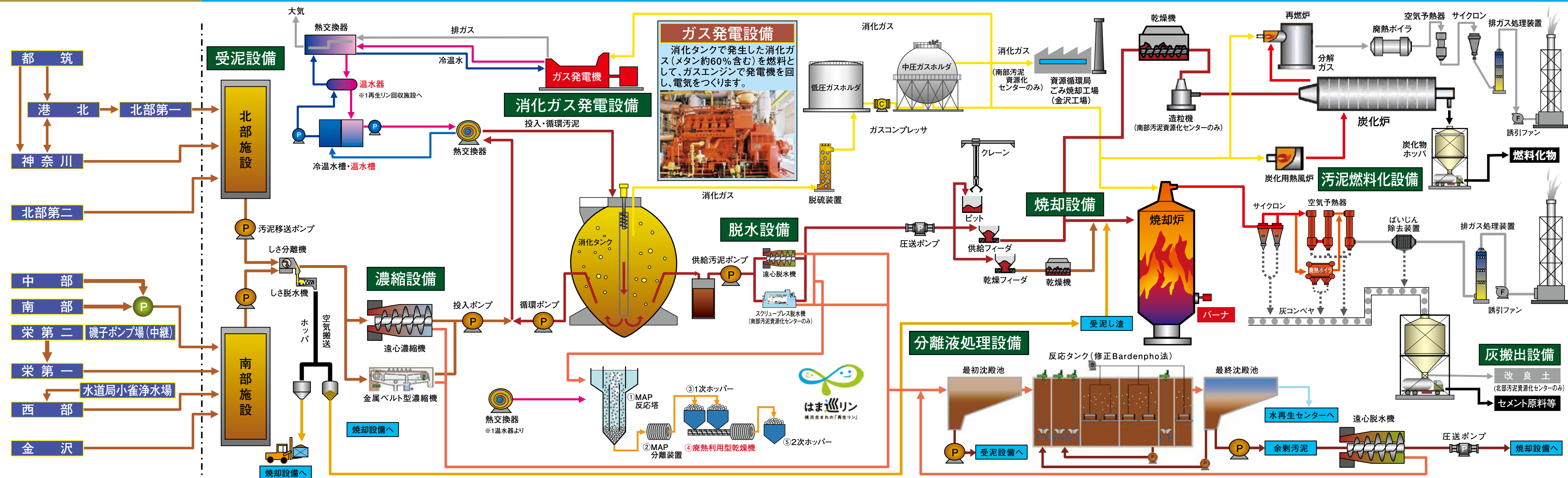
北部汚泥資源化センターと
南部汚泥資源化センターが
1年間に処理する汚泥は、
約558万m³にもおよびます。

送泥のフロー

汚泥処理のフロー

北部センター処理区

南部センター処理区



送泥設備

各水再生センターで発生する汚泥を、送泥ポンプにより汚泥資源化センターへ圧送する設備です。

受泥設備

各水再生センターから送泥された汚泥を受入れ、スクリーンかす(ごみ)と汚泥を分離し濃縮設備に送る設備です。

濃縮設備

汚泥を機械的に濃縮し、濃度を高め消化タンクに投入する設備です。

消化タンク設備

汚泥中の有機物を分解して汚泥を減量させると共に、汚泥性状を安定させる設備です。

脱水設備

消化タンクで減量された汚泥に薬品を添加、汚泥ケーキを生産し圧送ポンプで焼却設備に送ります。

焼却設備

汚泥ケーキを焼却炉で燃やし、灰は、改良土・セメント原料等として有効利用します。

汚泥燃料化設備

汚泥ケーキを低酸素雰囲気で炭化する施設です。石炭の代替燃料として利用され、温室効果ガス削減に貢献しています。

分離液処理設備

濃縮設備、脱水設備で発生した分離液の処理を行い、水再生センターへ送る設備です。

灰搬出設備

焼却炉から出た灰を、セメント原料等として搬出する設備です。